

42

誌上発表

朝鮮の医書『東医宝鑑』 ユネスコ記録遺産登録11周年記念事業

吉村 美香

愛知淑徳大学

朝鮮王朝時代の名医であり、2009年に世界遺産に登録された医書『東医宝鑑』の編纂をした許浚（ホ・ジュン）は、ドラマなどで広く知られている。韓国では既に1970年代から様々なコンテンツでホ・ジュンは取り上げられてきた。まず、1975年にホ・ジュンを主人公としたドラマ『執念』（MBC放送、主演：キム・ムソク）が放映された。翌年にドラマが映画化されたが、主要な映画祭で多くの賞を独占し高い評価を得た。1984年には小説『東医宝鑑』がシリーズもので刊行され、300万部のベストセラーとなったが著者が急逝したことで、小説『東医宝鑑』は未完結のまま刊行終了となった。この小説を原作として、1991年に全14話の『東医宝鑑』（MBC放送）というドラマが放映された。このドラマは短いながらもホ・ジュンの人生を丁寧に描いた秀逸なドラマである。その後、2000年に全64話の『ホ・ジュン～宮廷医官への道』（原題：許俊，MBC放送）が放映された。このドラマは平均視聴率が53%（最高視聴率64%）と驚異的な人気を博し国民的なドラマとなった。韓医院（漢方医院）や韓医学の利用も増え、ドラマが社会的にも影響を及ぼした。2009年7月31日にホ・ジュンの編纂した『東医宝鑑』はユネスコ世界記録遺産（Memory of the World）に選定された。その版本は、1613年に許浚が編纂責任者として刊行に加わった初版本で、韓国では、25巻25冊1セットが、国立中央図書館と韓国学中央研究院で保管され、日本では国立公文書館内閣文庫で夫々保管されている。『東医宝鑑』が世界記録遺産に認定されたのは、その独創性、記録情報の貴重さや重要性、関連人物の業績および文化的影響力など認められたことが要因となった。初版本『東医宝鑑』は実用性と科学性を重視し、当時までの東洋医学の全知識を集大成して体系的にまとめられ、その内容は日本・中国にも伝播し東アジアの医学の発展に大きく寄与しているという世界史的重要性も認められたようだ。その後、2000年のドラマのリメイクとして2013年に全120話の『ホ・ジュン～伝説の心医』（原題：龜巖許浚，主演：キム・ジュヒョク（75年放映時主演のキム・ムセンの息子））が放映された。2000年や2013年に制作されたホ・ジュン関連の韓流ドラマは日本でも、度々放映されており、ホ・ジュンや『東医宝鑑』が知られることとなった。このように、東アジアの医学に大きな貢献をした『東医宝鑑』とその編著者のホ・ジュンは、医学・医学史の世界のみならず、娯楽の世界でも重要なコンテンツであり続けてきた。2020年度が、『東医宝鑑』ユネスコ記録遺産登録から11周年となるのを記念して、「ユネスコ世界記録遺産東医宝鑑広報、及び活用事業推進」の一連のイベントが開催された。2020年9月には国際フォーラムが3日間、慶南山清郡の東医宝鑑村で開催された。また、2020年～2021年に韓国の5つの博物館で『東医宝鑑』をテーマに、記録遺産登録11周年記念連合展示会が催された。慶南の山清韓医学博物館では「民画に見られる東医宝鑑」、全羅南道の圓光大学博物館では「生命を大事にする韓医学」、ソウルの春園堂韓医院の韓医薬博物館では「ユネスコ世界記録遺産の東医宝鑑とその周辺」、大田の国立韓医学研究院では「伝染病：韓医学でその対策を講じる」、また慶北栄州市紹修書院の紹修博物館では「東医宝鑑の食治法再現特別展」を開催した。また、『東医宝鑑叢書』も刊行された。COVID-19のために、国際フォーラムは、海外研究者はオンラインでの参加となり、連合展示会も海外での展示会を中止するなど規模を縮小せざるを得なくなった。今回のイベントにより、初めてユネスコの「世界の記憶」登録された医学書発刊から現在までの足跡、影響、功績を辿りつつも、「東医宝鑑、次の100年に向けて」というイベントのキャッチフレーズが、世界中が感染症で混乱する世情の中で、医学の重要性を再認識し、さらなる医学の発展の必要性に真に訴えかけるフレーズともなった。